

# 休めない→休む →育休パパ



近年、育児にもっと関わりたいという男性＝「イクメン」が増えています。厚生労働省の2011年度調査でも、男性の育児休業の取得率が前年比で倍増しました。そこで、「福島県次世代育成支援企業認証」を受けたいわき市内の企業を訪問し、育休パパの意見や思いをお聞きしました。

取って後悔  
することは無い



人事総務部  
私市 優治 さん  
Yūji Kisaichi

## interview-01

アルパイン株式会社 いわき本社  
2012年7月10日(火)

### 休暇制度への取り組みは？

私市:弊社には、「多目的特別休暇」という制度があります。年間4日付与で最大24日間まで積立できる法定外の有給休暇です。昨年、本制度は4日間のうち1日分を2時間単位で取得できるように改善いたしました。例えば、朝の旗振り活動を終えて10時に出勤といった活用例がございます。

取得件数は平均して月に約30件、制度の内容は社員のパソコンから確認できるよう社内情報の「見える化」を徹底しております。

その他に、独自の休暇制度として「配偶者分働休暇」と「結婚休暇」を設けております。更に、「短時間勤務制度」は就業時間を4・6・7時間の中から選択できます。

### 育児休業取得の実績は？

私市:男性は2010年が最初で、今までに3名取得しました。育児休業取得の啓蒙はあまりしていませんが、女性は育児休業をほぼ100%取得しています。男性はまだ取得が少ない状況です。

また、育児支援の取り組みとして妊婦さんのために近くの駐車場を用意し、歩く負担を軽減しています。

### 社内の風土はどうですか？

私市:社内の風土として、「家庭優先」の風土があります。

また、組合に準じた労働委員会と労使で話し合いの機会を持っています。

### 今後の展望や方針は？

私市:この先、「男性の育児取得率」というように、「男性の」、「女性の」と分けて考えること自体古いといわれる時代になると考えられます。いわきで働く社員の皆さんと、次世代を担うお子さんの双方が笑顔で、仕事も生活も両立していけるよう、ささやかながらお手伝いさせていただきたいと思います。

## voice

### 育休パパたちの声

### 育児休業期間と、取得のきっかけは？

腰塚:2人目の時に1ヶ月間取得しました。きっかけは、制度を知って2人目が生まれたら取りたいなと思ったからです。

中田:1人目の時に1ヶ月間取得しました。きっかけは、妻がニュージーランド出身で男性も子育てに参加するという文化のため、その期待に応えたかったからです。自分でも子育てに積極的に参加したいと思いました。

斎藤:1人目の時に2週間取得しました。きっかけは、里帰り出産でなく、自宅と一緒に生活したいと思ったからです。

### 感想や周囲の反応は？

腰塚:仕事が多忙でも、こういう機会に1ヶ月間も家族と一緒に居られて良かったです。休暇中に私が1人目の面影を見ることで、妻が2人目の育児に専念できました。また、